

臨床獣医学講座 大動物臨床分野 産業動物内科学研究室

研究室の特徴

産業動物内科学研究室では産業動物内科学、大動物臨床実習や参加型臨床実習などを担当し、生産獣医療にも取り組んでいます。産業動物内科学は、牛の疾病の診断・治療法および予防法などを学ぶ科目で、大動物臨床は動物の健康維持と家畜飼養者の経営安定に貢献するものです。また、生産獣医療は“経営安定のための疾病予防を主とした獣医療”で、動物が快適に生活できる環境を整え、その能力を最大限に発揮させるとともに抗生物質などの薬剤使用を減少させることによって、「食の安全」確保に貢献します。

研究活動

産業動物内科学研究室では産業動物臨床に関連した研究活動を行っています。

○乳牛の第一胃アシドーシスの病態と予防に関する研究

乳牛に多量の濃厚飼料を給与した場合に発生する第一胃アシドーシスの病態や免疫担当細胞の機能に影響する要因、予防対策に関する研究に取り組んでいます。

○乳牛の周産期疾病の病態および防除に関する研究

乳牛の分娩前後にみられる負のエネルギーバランスや低カルシウム血症および関連疾病(周産期疾病)について、病態解明と防除対策に関する研究に取り組んでいます。これら研究による成果は、乳牛による生産性の向上に寄与し、酪農家の経営安定に貢献します。

○センシング技術の活用による牛の生産性維持に関する研究

第一胃内留置型無線式 pH センサーや三次元加速度センサーなど最新のアニマル・センシング技術の開発と普及・応用に取り組んでいます。これら研究成果は、動物による生産性および家畜福祉の向上に貢献します。

○牛の蹄病および削蹄の効果に関する研究

牛もツメが伸びるとストレスとなり、生産性が低下したり、運動器病が生じたりします。蹄管理と生産性の関係を研究しています。

診療活動

牛の病気の診断・治療機器を搭載した診療車で盛岡市近郊の農家に出向き、個体診療を行っています。個体診療では疾病牛を早期に回復させるために治療を行います。また、家畜検診車で岩手県を中心に牛群検診を行っています。牛群検診では血液診断や飼料診断、乳成分の診断等により牛の栄養状態を診断し、それに基づいて飼料設計を行います。

